



Figs. 1–2. Habitat of *Abrimodes esakii* on Kôzushima Is. — 1, Near the entrance of Kurone Tunnel (Akasaki side); 2, Meishi-kaigan (white triangular mark shows the place where the weevils were found on *Boehmeria biloba*).

これまで鹿児島以南の南西諸島、および台湾から知られていた。成虫はハドノキ、ヤナギイチゴなど木本のイラクサ科から得られているが (Kojima & Lyal, 2002), 神津島ではラセिताソウから得られた。ラセिताソウは島内各所に見られるが、本種は極めて局所的で海際の断崖下に生えるラセिताソウの数株でしか見られず (Figs. 1, 2), 丹念に調査したが、時期的なものか個体数は極めて少なかった。

7. ワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma curvirostre* Wollaston, 1873

1 ex., 秩父山, 19–IX–2011.

伊豆諸島ではこれまで三宅島, 八丈島, 青ヶ島

から記録がある。

引用文献

Kojima, H. & C. H. C. Lyal, 2002. New Oriental and Australian Conoderinae, with taxonomic notes on the tribe Othippiini (Coleoptera: Curculionidae). *Esakia*, Fukuoka, (42): 161–174.

Morimoto, K. & S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of the Izu Islands, Japan (Coleoptera). *Mushi*, Fukuoka, 50 (3): 19–85.

野津 裕, 2010. 東京都八丈島のシギゾウムシ. *神奈川虫報*, (172): 13–14.

妹尾俊男, 1985. ササセマルヒゲナゴゾウムシの神津島からの記録. *月刊むし*, (176): 42.

(2011年10月18日受領, 2011年11月17日受理)

【短報】東京都におけるノコヒゲフトコメツキダマシの記録

ノコヒゲフトコメツキダマシ *Otho spondyloides* (Germar, 1818) は、日本では北海道と本州から分布の知られるコメツキダマシである。

黒沢 (1963) や久松 (1985) で図示され、顕著な種であるにもかかわらず、採集記録は散発的で少なく、全国的にも珍しい種と思われる。関東地方においては、神奈川県 (平野, 2004, 2007), 栃木県 (森島, 2003), 茨城県 (公文・公文, 2009) の山地帯から記録がある。

東京都の奥多摩地域からも、以下のように採集されているので報告する。

1♂, 東京都西多摩郡奥多摩町日原川本谷, 11. VIII. 2002, 川田一之採集・鈴木 互保管; 1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山～人形山, 9. VII. 2011, 筆者採集・保管。

本種は、ヨーロッパからシベリアにも広く生息することが知られ、タイプ産地はイギリス南西部のCurlandである。日本産の個体群については、これまで図示されてきた大陸産の個体群 (Mertlik, 2008 など) とは、雌雄ともに触角の形状などに差異が認められる。

本稿を草するにあたり、種々ご教示をくださり、データの公表を快く託された鈴木 互氏 (東京都) に心よりお礼申し上げます。



図1. ノコヒゲフトコメツキダマシ (♀: 奥多摩町産)。

## 引用文献

- Germer, E. F., 1818. VIII. Vermischte Bemerkungen über einige Käferarten. *Magazin der Entomologie*, 3: 235–236.
- 公文 暁・公文保幸, 2009. 花瓶山周辺で見つかった甲虫類の記録 (その3), るりぼし, 38: 11–16.
- 黒沢良彦, 1963. コメツキダマシ科, pp. 167–168, pl. 84. 原色昆虫大図鑑 (第2巻), 北隆館, 東京.
- 久松定成, 1985. コメツキダマシ科, pp. 42–50, pls. 8–9. 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社, 大阪.
- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目. 神奈川県昆虫誌 II, pp. 335–835. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 平野幸彦, 2007. 丹沢大山動植物目録, 甲虫目 (カミキリムシ科を除く), pp. 98–236. 丹沢大山総合調査学術報告書.
- Mertlik, J. 2008. The species of the family Melasidae (Coleoptera: Elateroidea) Czech and Slovak Republics. *Elateridium*, 2: 69–137.
- 森島直哉, 2003. コメツキダマシ科, pp. 207–208. 栃木県自然環境基礎調査, とちぎの昆虫 II. 栃木県自然環境調査研究会昆虫部会.

(亀澤 洋 350-0825 川崎市月吉町32-17)

### 【短報】神奈川県相模原市緑区で多数採集したオスグロオオハナノミの採集状況と色彩変異

オオハナノミ科のオスグロオオハナノミ *Macrosiagon pusilla* (Gerstaecker, 1855) はアジアに広く分布し (Batelka, 2008), 幼虫はハチ類の巣に寄生すると推測されているが, 寄主は明らかになっていないようである. また, 体長は 4~12 mm と個体変異の幅が大きい. 雌雄は触角の形状のほか, 色彩も一見して異なり, 雄では腹部 (第1節前半を除いて赤褐色) 以外は黒色であるが, 雌では前胸と腹部が赤褐色を呈するなど赤化傾向が強い. しかし色彩も変異が多く, ときに雌でも雄の色彩を示すとされる (畑山, 1985).

筆者らは, 以下のように神奈川県相模原市にて本種を多数採集しているので, そのときの状況をここに記すとともに, 色彩 (雌雄における差は軽微で雌も雄のそれに近い) についても書き留めておきたい.

7♂♂, 3♀♀, 神奈川県相模原市緑区 (旧津久井郡藤野町) 名倉葛原神社, 8. VI. 2011, 露木採集・神奈川県立生命の星・地球博物館保管; 14♂♂, 2♀♀, 同, 小畑採集・保管.

当日 12 時過ぎに, 筆者らの一人小畑が同神社前の草地を見歩いていたところ, 草丈 30 cm ほどの単子葉植物の葉先に静止している本種を見出し, 数頭を採集した. その後その付近を精査したところ, 同様な状態のものやイタドリなどの葉裏に静

止している多数の個体を発見し, 採集することができた. なお天候は無風に近く, 日射しもあったと記憶している.

上記の個体は, 雄で体長 (上翅端まで) 4.9~7.0 mm, 雌で 5.3~6.5 mm と小さい. 雄は基本的に腹部第1節後端~末端節, 口器, 触角第1, 2節, 脛節端刺, 爪が明褐色~赤褐色である以外はほとんど黒色だが, 腹部は全体が黒色のものが1個体, 黒化傾向のいちじるしいもの数個体あり, また触角第1, 2節は多少とも黒化するものも多い. 雌も黒色, 全体に雄の色彩に近いが, 前胸背はかすかに赤色を帯び, また2個体で基部, 5個体すべてで側面下縁部が多少とも強く赤褐色がかかること, 上翅は1個体でやや赤褐色がかかる点で異なり, 腹部は全体が黒色のもの, 各節端が暗褐色を帯びるもの, 2~4節が明褐色で各中央と側部に黒色紋をもつもの, 側部の大部分と第3節端が赤褐色, 全体の大部分が赤褐色のものと, 5個体がそれぞれに色彩を違えていた. いずれにしても, 雌は5個体とも雄の色彩に近いわけで, この点きわめて興味深い.

末尾ながら, 神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏氏には本稿作成に協力いただいた. 記して感謝したい.

## 引用文献

- Batelka, J. 2008. Family Ripiphoridae Gemminger & Harold, 1870. Pp. 29, 73–78. In: Löbl, I. & Smetana, A. (eds.): *Catalogue of Palaearctic Coleoptera, Volume 5. Tenebrionioidea*. Apollo Books, Stenstrup, 670 pp.
- 畑山武一郎, 1985. オオハナノミ科 Rhipiphoridae. 日本原色甲虫図鑑 (III), pp. 374–376, pl. 65. 保育社, 大阪.

(露木繁雄 249-0006 逗子市逗子7-1-24)

(小畑 裕 249-0004 逗子市沼間1-4-19)